

集計・分析基盤とBIダッシュボードの導入により 経営情報と生産状況の“見える化”を実現

南条装備工業株式会社



IT 推進部
情報技術グループ
景山 泰器 氏

南条装備工業株式会社は、工場の生産実績データの“見える化”を目的に、ウイングアーク1stの集計・分析プラットフォーム「Dr.Sum」とBIダッシュボード「MotionBoard」を導入した。工場の実績データをリアルタイムに収集・分析し、経営ダッシュボードや現場に設置した掲示板に表示。実績データに基づく経営者の迅速な意思決定、および工場の生産現場における生産状況の確認、生産設備の異常監視などに役立てられている。

Summary

概要



背景・課題

- ・ アメーバ採算システムの実績データを分析／活用したい
- ・ 手作業で作成していた生産日報を電子化したい
- ・ 不良実績を早期に把握／分析したい



導入のポイント

- ・ わかりやすい見た目の分析画面が容易に設計できる
- ・ ユーザー自身がBIダッシュボードの開発／変更が可能
- ・ 欲しい情報が欲しいときに入手できる



効果

- ・ 実績データに基づく経営者の迅速な意思決定
- ・ 生産状況の可視化／不良実績の早期把握により生産効率及び品質が向上
- ・ データ分析を担当するIT部門の負荷軽減

導入製品・サービス



MOTIONBOARD

CASE STUDY

MotionBoard ビジネスのあらゆるデータを可視化するBIダッシュボード。データを必要なカタチで、シンプルに可視化。

Dr.Sum 現場がデータ活用するための「フロントデータベース」。数百億件の大容量データに対応するデータベースエンジンと、専門知識を必要としないExcel・Webブラウザのインターフェースで、見たいレポートを瞬時に取得

ノンプログラミングで わかりやすい分析画面を 容易に開発できるBIツール

自動車部品メーカーの南条装備工業は、工場の生産実績データの精度向上を目指し、組織単位を細分化して「時間当たりの採算」を算出する「アメーバ採算システム」を2014年に導入した。このシステムにより、実績データの精度を大幅に向上させることができた同社では、実績データを分析・可視化するBIツールの導入を検討。長年の取引関係にあるベンダーに相談し、提案を受けたのがウイングアーク1stの集計・分析プラットフォーム「Dr.Sum」とBIダッシュボード「MotionBoard」の組み合わせだった。

同社でデータ分析を担当するIT推進部 情報技術グループ 景山 泰器氏が実際に試用したところ、「ノンプログラミングでわかりやすい分析画面を容易に設計できた」という。ユーザー部門



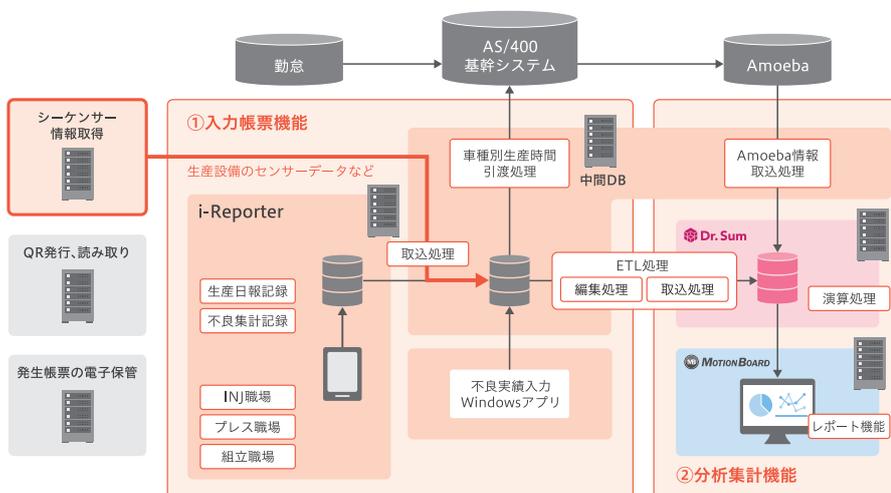
CX-5 ドアトリム

主導の開発が可能になるという期待も持ったことから、Dr.SumとMotionBoardの導入を決定した。

同社がまず取り組んだのは、人手で作成していた生産日報の電子化だった。ここにはタブレットで入力可能な帳票ツール（i-Reporter）を別々に導入し、そこで収集したデータをDr.Sumで集計・分析してMotionBoardで可視化するという仕組みを作り上げた。実績データをリアルタイム

に収集・分析して経営ダッシュボードに表示するようになったことで、経営者の迅速な意思決定が可能になったという。現在はさらに不良実績などのデータ、生産設備に取り付けたセンサーデータなどを収集し、不良集計や生産性推移といった生産状況がひと目で分かる掲示板モニターを工場の現場に設置。生産効率や製品品質の向上、設備の異常検知・保全にも役立っている。

データをリアルタイムに収集・分析



南条装備工業株式会社

設立 : 1965年2月
本社所在地 : 広島県広島市
URL : <https://www.nanjo.co.jp/>

1915年に南條商会として創業。1960年以降はマツダ(東洋工業・当時)のグループ企業として、自動車内装部品の開発、生産、販売を手掛け、事業を発展させている。

サイト内でより詳しく
ご紹介しております。

[https://www.wingarc.com/
product/usecase/214.html](https://www.wingarc.com/product/usecase/214.html)

